

OTC薬、プライマリケアを対象とする

## 「薬剤師の臨床判断ワークショップ2017」

### 対象症候『頭痛』

**アドバンスコース：2017年 10月21日（土） 15:00～17:30**

（会場）昭和大学 旗の台キャンパス 2号館4階 ラーニング・コモンズ（東京都品川区）

**入門コース：2017年 10月22日（日） 9:00～18:00**

（会場）昭和大学 旗の台キャンパス 1号館5階 会議室A・B・C 等（東京都品川区）

## 企画者、共催団体、参加者からの声

### ワークショップ2017の企画のポイント

亀井 大輔（昭和大学 薬学部 准教授）

薬局にて、「頭痛」を訴える患者が来局されたとき、患者の安全性、医薬品の適正使用、そして症状の改善・緩和につながる対応に悩んだ経験はありませんか？

本プログラムは、薬局でのプライマリケアを担うにあたり、様々な患者情報や基本的知識に基づく臨床判断、判断に基づく医療の実践、そして症状の改善・緩和につなげるフォローや情報共有等、必須となる能力を効率的に修得できる研修プログラムです。

両コースとも、参加体験型のアクティブ・ラーニングにより、これまでに薬剤師として身につけた能力を系統的に整理しながら、ほんの少しの新たな知識・技能を加えることで、プライマリケアを担うための必須の能力が効率的に修得できるよう工夫がなされています。また、今回は対象症候を「頭痛」とし、具体的な症例/事例を交えながら、すぐに使える実践的な能力を養成します。是非、この機会にご参加して頂けたら幸いです。

### 入門コースを企画して

木内 祐二（昭和大学 医学部 教授）

地域におけるプライマリケアの重要な担い手である薬剤師が、症状や健康の不安を訴える来局者の相談に応じて、適切な対処法を選択して提案・実践（トリアージ）するためには、臨床判断の能力を修得することが必要です。

本ワークショップでは、臨床判断能力の習得のため、日常的に遭遇する機会の多い「頭痛」を訴える来局者を例に、①症候を生じる疾患とその特徴の理解、②効果的な情報収集と疾患の推測、③疾患や重症度に応じた適切な対処法のトリアージ、の3つのプロセスについて、グループ討議とロールプレイを交えた参加型セミナーの形で楽しく学習する研修プログラムです。臨床判断とトリアージのプロセスを時間をかけて討議し、「健康サポート薬局」を担う薬剤師として、求められる能力を確実に修得してもらいたいと期待しています。本ワークショップで、プライマリーケアの担い手としての実践的な能力を養成して頂き、少しでも日々の業務に反映して頂けたら幸いです。

## 入門コースを企画して

狭間 研至（一社 日本在宅薬学会理事長）

薬剤師の臨床判断とは、医師の負担軽減や医療費適正化のために、消化器症状や呼吸器症状などのちょっとした疾患は、薬剤師で病名を診断してそれにあった医薬品を選定するというのが目的ではありません。

何らかの症状を訴えられる患者さんが、薬局店頭に来局されたときに、その患者さんが安全性を担保しながら医薬品を適正に使用し、結果的に症状の改善・緩和につなげることを目的としたものです。

この目的を明確にすれば、その患者さんの病名を現在薬学部で薬学生に教えられている手法も活用して考えて、服用後の状態を見るためにバイタルサインを活用し、その状態を薬学的に評価して医師をはじめとする医療従事者に伝えることの重要性がきちんと認識することができます。

今の薬剤師業務に閉塞感を抱えている薬剤師には、是非、ご参加いただきたいと思います。OTC医薬品のみならず、医療用医薬品の適正使用においても役立つ内容です。ご参加をお待ちしています。

## アドバンスコースを企画して

坂口 眞弓（みどり薬局）、山岡 和幸（前橋北病院）

2016年10月より「かかりつけ薬剤師・薬局機能」と「健康サポート機能」を併せ持つ「健康サポート薬局」の届け出が始まりました。「健康サポート薬局」の要件のひとつとして、要指導医薬品等の取扱いが含まれ、48薬効群の品ぞろえが必須となっています。今まで調剤中心の薬局業務であったが、今後はOTC医薬品の活用も薬局薬剤師の重要な役割となっていきます。

本アドバンスコースでは、OTC医薬品販売に関する法的知識の習得と、臨床判断でOTC医薬品が適当であると判断された来局者に対し、適切なOTC医薬品を選択、情報提供して販売、販売後のフォローを行うための知識、技能、態度を習得できます。

今回のアドバンスコースでは、頭痛に対する OTC 医薬品について事例を交えて参加型の研修会を実施します。

### 共催団体から

塚本 由弥子（一社 薬局共創未来人財育成機構）

日本アプライド・セラピューティクス学会の「臨床判断ワークショップ」は、OTC 薬販売の際に必要な患者情報の収集と臨床判断のプロセスを、木内祐二先生、狭間研至先生から医師の知見を基に学ぶ入門コースから始め、薬剤選択のためのプロセスを、坂口真弓先生から薬学的知見を基に学ぶアドバンスコースへと続く、大変学習効果の高いプログラムとなります。

一社）薬局共創未来人財育成機構では、薬剤師が地域住民の健やかな生活に貢献できるよう、必要とされる総合的な知識や技術を学ぶため、「学んだ薬剤師自身が価値ある変化が得られたと実感できる効果的なプログラム」「5～6年後の将来像を見据えて、必要な知識・技能を身につけ、自ら成長できるプログラム」の提供を行っておりますことから、その学習効果を高く評価し、共催するに至りました。

ワークショップは、スキル習得のための学習の場としてだけでなく、その魅力は無限大にあり、参加者、講師が交流をはかりながら互いに刺激、活性化することで、予期せぬ新たな学びがもたらされることも期待できます。より多くの方に、この貴重な学びの機会にご参加いただけることを願っております。

### 参加者からの声

薬剤師の臨床判断ワークショップ 2016 対象症候『咳・呼吸困難』入門コース参加者

病氣ではなく 症状から 患者対応でテストも 好手法は  
今後 全薬剤師に必要だと思いつつ  
貴重なご講義を ありがとうございました

喘息や肺炎など、タイミングによっては症状をあてはめることができないので  
咳と呼吸の症状は難しいと思いました。しかし風邪など一番身近な症状でもあるので  
薬局でできることを見つけたいです。

アクティブラーニング. ということで楽しく学ばず  
多くの専科の学び

薬剤師の臨床判断ワークショップ 2016 対象症候『咳・呼吸困難』アドバンスコース参加者

代表的なOTCを選ばれている. バリエーションが広いこと.  
小人数でないと全員が参加できること. ようなこと.

OTCの現場とは若干離れているので. 薬局者. 応対P. 上手に  
なりません. 調剤薬局の現場で役立つこと. と思って  
います.  
大学で学生と実習を行う時に. 大いに参考にしていただければ.

在庫あるOTCに限られるので. 添付文書もよく見たいことがあります.  
今後の課題がみえました。

ありがとうございました。

次も参加したいです。

以上